

科学よもやま話

佐藤 勝昭

第17回

eラーニングをもっと活かそう

電子媒体を通して行う教育をeラーニングと総称します。この中には、コンピュータ援用教育、衛星通信やインターネットを介してリアルタイムで遠隔地を結んで行われるテレビ授業、インターネット経由のオンデマンド授業、インターネット経由の双方向授業など、さまざまな形態があります。特に、インターネットを介したオンデマンドの講義形態は、時間や場所の制約なく学習できるということから、英語圏を中心としてグローバルな展開を見せています。

我が国でも2-3年前から、私立大学や一部国立大学を中心に、eラーニングが盛んになってきました。遅ればせながら、私の所属する大学も文



サンマルタン運河(パリ) 佐藤 画

部科学省の補助をいただいて、eラーニングに取り組んでいます。今年度は5科目、来年度は18科目を配信することになっています。私自身も、昨年度後期に「磁気光学入門」という大学院科目を13週にわたって配信しました。パワーポイントと教員の画像・音声を同期させてコンテンツを作成することは結構手間のかかる作業ですが、取えてチャレンジしてみました。全授業終了後の学生の感想は「講義が、研究室の実験や就職活動と時間が重なることがなくて、しかも納得いくまで聴講できるといった点がとてもよかったです。」とか「自分のペースで取り組むことができたため、理解することができ、たくさんの興味を持ってました。」など肯定的なものが多く見られ、コンテンツ作りの苦勞が吹っ飛びました。

最近、すべての授業をeラーニングでやる新しい大学院が設立されるということが報道され話題になりました。大学教員の中には、「教育は人と人のふれあいを通して行われるべきであるから、eラーニングのように血の通わない講義は邪道である」という批判があります。私も、対面式の授業のよさを否定するつもりはありませんが、「受講する場所を選ばない」、「繰り返して聴講できる」、「用語の解説にリンクできる」、「教員が十分な時間をかけて準備する」などeラーニングの特徴を活かし、対面式授業とうまく組み合わせれば教育効果を上げることが可能ではないかと考えています。eラーニングの発展のために、国主導で一層のインフラ整備に取り組んでいただくことを願っています。

(東京農工大学 副学長)